

グリーンビジネスの可能性を探る

「環成経」
豊橋地区

活動開始に記念シンポジウム



グリーンビジネスで日本を変える地域ネットワーク、「環成経」（環境成長経済の略）が豊橋地区で、インテグログループ代表・石黒功氏を代表発起人に活動開始を記念したシンポジウムが20日、豊橋商工会議所で開かれた。環成経共同代表のピーターD・ピーターセン氏（イースクエア社長）らが講演したほか、地元企業3社が事例発表した。（杉浦文夫）

地球に負荷を与えない 主催・運営する会員制
経済活性化を考えよ 活動の「環成経」。現
在、群馬、石川、愛知、

「環成経」の豊橋地区の活動記念シンポジウム

豊橋商工会議所で

大阪など7府県で活動開始。3年後に30地域を目指している。

愛知県では、豊橋の

インテグログループが核企業に活動を開始し、

この日、「東三河でのグリーンビジネスの可能性」などをテーマに記念シンポジウムが開かれた。

柳田啓之・環成経事務局長の主催者あいさつ、磯村直英豊橋商工会議所会頭の開催地

いさつに続き、ピーターセン氏が「世界経済の大潮流と地域経済」と題して講演。

「人口爆発で2050年、食料は世界で現在の2・25倍（95年比）必要だが、穀物の一人当たり生産量は1984年、漁獲は2000年をピークに減少。水は2025年までに世界人口の3分の2が、自由に水を使えない「水ストレス」になり

と説明。日本は食料を60%以上、エネルギーの97%を輸入しているが、森林や海湖に恵まれ、日照時間、風、波力、地熱などの資源の豊富な国。自然環境を保全・蘇生しつつ発展できる」と語った。

このあと、環境テクシス、明輝クリナー、ガステックサービスの循環型社会を目指す取り組み報告があった。